

平成 21 年度土壌断面調査実技講習会

開催日：2009.9.11

開催地：多摩森林科学園

参加団体：山形県、福島県、埼玉県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、奈良県、和歌山県、鳥取県、広島県、山口県、徳島県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、(株)総研、(株)クリタス 林野庁、森林総研

(計 33 名)

講師：森林総研本所 10 名(小林、池田、三浦、石塚、稲垣(昌)、古澤、伊藤(優)、志知、橋本(昌)、金子)、準備：今矢、森下、赤間。



都道府県や民間団体等の土壌調査担当者を対象に、土壌調査の実技講習会を行った。本年度は、担当者の変更等の理由で本事業の調査経験が少ない人を対象に、調査の基本を理解することを目的とした。

当日はこの時期にしては比較的涼しく雨も降らず好天に恵まれた。多摩森林科学園の庁舎前に集合して赤間園長から挨拶をいただいた後、実験林に移動した。まず、調査プロットで行う杭の確認や写真撮影の方法、植生および地形概況の記載や枯死木調査法を説明した。続いて 4 班に分かれ、前日に準備しておいた土壌炭素蓄積量調査 2 断面と代表断面調査 2 断面に移動し、午前中一杯それぞれの断面において調査票の試料採取方法の説明・実習を行った。土壌炭素蓄積量の調査断面では、調査票の記載、堆積有機物の区分や採取、化学分析および定体積の土壌試料の採取についての説明をした。代表断面では用意された幅 150cm、深さ 100cm の断面に実習生二人が入り、実際に土壌断面を観察し、断面調査票を記載した。昼食時には庁舎中庭において、分解程度の異なる枯死木を用いて分解度の判別を説明した。午後は、土壌炭素蓄積量調査と代表断面調査の班を入れ替え、すべての実習生が同じ内容を学ぶようにした。1 日の実習

にしては盛りだくさんの内容であったが、参加者の皆さんを始め多摩森林科学園の職員の方々の協力で、時間内に滞りなく終了することができた。

本年度の実習では、剪定鋏や土壌コテを使用した断面整形や円筒による土壌試料の採取、実証生自身による層位区分など、なるべく体験を多くする取り入れるように心がけた。ただ、土壌コテで素早く根を切るには慣れが必要であり、初めて円筒を使用する人に正しく使用を伝えるには時間が短すぎた。さらに当初予定より参加者が増え一班あたりの実習生が8名と多く、用具が足りなかったことから十分に実習できたとはいえず、今後もこのような実技講習会が必要であると思われる。